

高橋 泰樹 先生

東京都世田谷区 高橋歯科醫院



アルジネートでの印象採得については、全て3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材を使用されている高橋先生に、3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材の導入の背景、導入の効果、そして具体的な運用手順や使い方のコツをお聞きました。

1 | 印象採得の準備を簡単に、そして高品質に

3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材を導入するまでは、粉末と水を計量しカップに入れて練和するタイプの自動練和器を使用していた。粉末は0.1g単位で予め計量し、フィルムケースで保管し、水は冷蔵庫保管で温度を一定にし、安定化させていた。しかし、それでも手作業による粘稠度のばらつきや硬化時間のばらつき、気泡混入などが多かった。そのため、準備を簡単に、そして品質を安定化させるために3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材の採用を決断した。

2 | 自費診療、保険診療、すべての印象材の練和をペンタミックス™ 印象材自動練和器で統一

自費のクラウンブリッジは、シリコン印象材インプリント™ 4 印象材ソフトトレー ボディを使用している。その他のケースでは、全て3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材を使用している。具体的には、保険診療の精密印象、その対合歯、デンチャー、スタディモデルに使用している。また、これまで嘔吐反射のある患者さんやデンチャーの症例では、水分量を変え、粘稠度を調整していたが、3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材は少し硬めで垂れにくい性状なのですべての症例に使用できている。

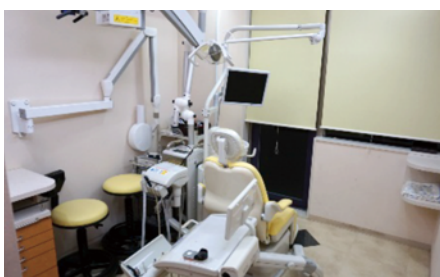
3 | スタッフには、患者さんのケアなど“機械ではできないこと”を

導入しての大きな利点は、いつ誰が操作しても、練和したペーストに気泡が少なく、粘稠度や硬化時間が安定していること、そしてシャープに硬化することである。これまでは、ばらつきを抑えるためにフィルムケースで粉末を計量したり、水をすりきりで計量したり、使用後の練和カップを清掃する手間があった。3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材の導入によって、練和は機械に任せ、作業の効率化により生まれた時間で、スタッフは患者さんとのコミュニケーションや予防のケアの時間を増やすなど、本来業務にあたってもらえることも導入の大きな利点である。

4 | 古いシステムとの使い分けでは自動練和器の導入の旨味がなくなる

手練りなど古いシステムが残っていたり、症例による使い分けをしたりすると、スタッフに煩雑な運用を強いることになり、ケアレスミスに繋がり、自動練和器の導入の旨味が全くなくなる。全ての印象採得をペンタミックス™ 印象材自動練和器で、シンプルかつ一貫したシステムで構築することが、安定した品質に繋がると考えている。例えば、“支台歯の印象は3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材”、“対合歯の印象は手練り”で運用すると、石膏模型の精度が悪かった時に、その原因が対合歯の印象精度のせいなのか、印象採得以外の影響なのか、切り分けられなくなってしまう。補綴物作製の入り口である印象採得の精度を可能な限り高め、その品質を上げることが、対合歯も含めた全ての印象採得で3 M™ ペンタ™ アルジネート印象材を使用している大きな理由である。

院内でのオペレーション



個室診療もあるため、タイミング合わせにはこれまで通りインカム使用。



バックヤードには、ペンタミックス™ 印象材自動練和器、寒天コンディショナーを設置。



アルジネート用に、カートリッジを2個用意して冷蔵保管。シリコンについても同様の運用。